

<分科会の各講座紹介>



【各講座の紹介】

分科会番号「タイトル～サブタイトル～」
講師名（フリガナ） / （所属） / 〔プロフィール〕
〔分科会の概要〕 / 〔担当者のコメント〕
カテゴリー×キーワード/屋内 or 屋外/講座の形式
子どもの入室について

【ショート分科会】

G-1 「お母ちゃんが語る 森のわらべ」

講師：森のわらべ おひさま / (自然育児 森のわらべ多治見園 保護者)

森のわらべ多治見園に魅力を感じ、子どもたちを通わせている(卒園させた)お母ちゃんたちの集まりです。

〔分科会の概要〕

森のわらべ多治見園(森わら)では、お母さんに求められる役割もたくさんですが、「できる人ができる事を、お互い様の気持ちで」をモットーに、お互いに助け合って活動しています。大人も子どもも寄り添いあい、ありのままの姿を大切にする子育て。森わらの保育を通して子どもだけでなく、大人も「自分を生きる」という事を改めて考えることができます。座談会では、色々な活動の中で、どのように園と保護者の信頼関係を築いているのかを皆さんとお話していきたいと思います。

いかにして「森のようちえん」の活動を保護者の立場でサポートしているのか、園と信頼関係を築いているのか。保護者の立場からみた「森のわらべ多治見園」を保護者ならではの切り口でざっくりと語ります。保護者の皆さんはもちろん、園や行政関係の方も楽しめる内容です！

運営×保護者/屋内/座談会形式

子ども：何歳でも同室OK

G-2 「木育カフェ ～ぎふの木でものづくりしながらおしゃべりしましょう～」

講師：吉田 理恵 (ヨシダ リエ) / (NPOmusubi 代表)

岐阜県内の公立中学校で約10年教師として勤務。出産育児をきっかけに、子どもの健やかな成長のために自分ができることを模索するためアカデミーに入学し研究する。現在はNPOmusubiの代表を務める。

〔分科会の概要〕

話し合いの手法である「ワールドカフェ」と「木のものづくり」を融合させた、新しい話し合いの在り方を森林文化アカデミー松井教授が考案。「木育カフェ」と名付け体験講座を各地で開いています。こちらが示すテーマに沿って、木の小物を作りながら、グループで話し合います。手を動かしながらの気軽なおしゃべりを楽しんでください。

木の香りと講師の吉田さんの柔らかい雰囲気癒されながら、全国から集まる参加者と交流を深められます。手を動かしながらだと、不思議と初対面の人とでも会話が弾みます。作った木の小物は、岐阜のおみやげとしてお持ち帰りくださいね！

コミュニケーション×木育/屋内/WS形式

子ども：何歳でも同室OK

G-3 「子ども×地域のプロの新たな可能性～陶芸家と共に、土とあそび、土を焼く～」

講師：島田 篤（シマダ アツシ） / (陶芸作家)

1974 年生まれ、2000 年頃より陶芸をはじめ
岐阜県上矢作町、愛知県長久手町、イタリアサヴォーナ市にて制作
現在は多治見で制作をおこなう

講師：厚川 文子（アツカワ フミコ） / (陶芸作家)

1975 年 さいたま市生まれ、1997 年 和光大学人文学部芸術学科卒
2004 年 多治見市陶磁器意匠研究所修了
全国各地で個展、グループ展を中心に活動

〔分科会の概要〕

この講座は、森のわらべで毎年行う「土で遊ぼう」というワークショップの内容と、そこで感じた様々な事を中心にお話します。

我々が陶芸を通して得た知識やそのノウハウを基に、掘った土を焼くという単純で趣ある行為を楽しみ体験しながら、森への新たな興味やその広がりへ繋がるように願い行なっています。

活動フィールドの周りには素敵な方たちがたくさんいるはず。そんな方と森のようちえんがコラボすると、どんな保育がうまれるのでしょうか？美濃焼で有名な多治見市在住の陶芸家が、「土」を使って行った森のようちえんでの保育実践を聞けば、あなたを新たな森の魅力へと誘ってくれること間違いなし！

こども×地域/屋内/講義形式

子ども：8 歳～0K

G-4 「“Ich(わたし)” が大事 “Du(あなた)” が大事 ドイツのみんなで語り合う保育」

講師：森田 彩虹（モリタ アヤコ）

大学で野外教育を専攻し、幼児から高齢者を対象としたキャンプやチームビルディング等を学ぶ中で森のようちえんに出会う。2 年間公立幼稚園・保育園に勤務するが多くの疑問を感じ退職、1 年間ドイツに滞在し現地の幼稚園で実習経験を積み、現在に至る。

〔分科会の概要〕

1 年間ドイツに滞在し、森の幼稚園を含む 8 件の幼稚園で実習経験する中で、見たこと・聞いたこと・感じたことを紹介していきます。森の幼稚園だけでなく、多様な保育スタイルがあるドイツの保育で大事にされていることをヒントに、乳幼児期の子どもと過ごす楽しさ、私たちの役割を考えていきましょう！

保育現場への疑問…それは「森のようちえん」を知ってしまった保育士には“あるある”なことなのかもしれません。日本とドイツの保育現場を体験、経験したからこそわかる森田さんの想いをお届けします。

こども×保育/屋内/講義形式

子ども：何歳でも同室 OK

G-5 「夜は友だち～ネイチャーゲームであじわう夜の森～」

講師：原 令子（ハラ レイコ） / （岐阜県シェアリングネイチャー協会）

日本シェアリングネイチャー協会インストラクター、岐阜県シェアリングネイチャー協会理事。保育士。地域のまちづくりや木育との関わりの中でネイチャーゲームを展開中です。

〔分科会の概要〕

ネイチャーゲームは自然を楽しみ、自然と遊び、自然から学ぶ喜びに満たされる「シェアリングネイチャー」の考え方に基づく野外体験活動です。特別な知識がなくても、自然のもつ様々な表情を楽しみながら自然の不思議や仕組みを学べます。夜の森は静けさや神秘さといった、昼とは違った表情を見せてくれます。秋の夜長、三日月を見上げながら暗い森に入り、夜の森との一体感をあじわってみませんか？

「原ねえ」こと原さんは、ベテランの保育士でもあります。時には絵本も使って、小さな子から大人まで、誰もがワクワクしながら自然に親しむためのしかけづくりの達人です。原ねえと一緒に夜の岐阜の森を楽しみましょう！

自然×遊び/屋外/WS形式

子ども：6歳から親子参加OK

G-6 「里山千年構想と森のようちえん」

講師：山田 夕紀（ヤマダ ユキ） / （美濃加茂市産業振興部農林課里山再生係）

〔プロフィール〕

里山千年構想を掲げて、美濃加茂市の里山再生を始めてまだ6年！

「森のようちえん」をはじめとする木育の取り組み、里山活用、森づくり、まだまだやることはたくさん！！千年、楽しく頑張っていきたいと思います。

〔分科会の概要〕

美濃加茂市が掲げる「里山千年構想」を進めていく上で重要な役割を担う「森のようちえん」、里山空間活用の最先端である「森のようちえん」を行政サイドからどう関わっているのか、そして里山担当者としての「個人的な思い」について話をさせていただけたらと思います。

里山の荒廃、鳥獣被害…地域が抱えるこうした問題を解決に導く方法の1つが「森のようちえん」だったりするのかもしれませんが。岐阜県美濃加茂市が主催で始めた「森のようちえん」について、里山を愛する市役所職員が熱く語ります。

運営×行政/屋内/形式未定

子ども：何歳でも同室OK

【分科会】

A-1 「感覚と動きの発達理論と森の環境～子どもは与えられた環境に適応する～」

講師：灰谷 孝（ハイタニ タカシ） / （株式会社 innochi 代表取締役 CEO）

会社員、企業研修講師を経て、発達障害といわれる子どもたちの心身発達支援を原始反射の観点から行っている。「発達の偏見と格差をなくし、発達がみんなのものになること」を目指している。従来のような度数の矯正だけでなく、メガネを掛けることで目の使い方、脳の使い方が変わり、目が楽になる、カラダが楽になる、感性が磨かれるといった「発達」を促す、これまで世の中になかったまったくの新しいコンセプトのメガネ「発達するメガネ」を2019年1月からリリース。

〔分科会の概要〕

私達が生きていく上で大切な五感を支える3つの基礎感覚があります。

「内臓感覚」「固有受容感覚」「前庭感覚」幼少期にそういった感覚が育ち、思考や感情を司る脳も育っていく仕組みについて、体験ワークを交えながら説明します。子どもが自然にやっている遊びや行動が、どんなふうに育ちの中で大切なのか、意味を持つのかを身体と脳の仕組みから知っていただきたいと思います。

森の中で子どもが育つこと。なぜよいのか？何が育つのか？発達の視点から理論的に「森のようちえん」の魅力に迫ります！現在、「発達するメガネ」の作成を軸に活動されている灰谷孝さんの発達理論講座を初めて聞いた時は、まさに目からウロコが落ちる感覚を味わいました。この感動をぜひ体験してみてください。

こども×発達/屋内/講義&WS形式

大人のみ（1歳未満の乳児に限り同室OK）

A-2 「知っておこう！命が喜び、個性が伸びる未来へ繋ぐ「保育、三種の神器」」

講師：澤田 有心子（サワダ ユミコ） / (Being up 協会代表)

1970 年生まれ 三児男児の母。元幼稚園教諭・元保育士、カウンセラー。子育てに悩んだことから心理学を学びはじめ、約13年。人間の幸せを考えるアドラー心理学に魅了され、講師となって7年。子育てを通して、信じることの大切さを実感し、「あなたはあなたのままでいい」をモットーに活動している。

2017 年より、自己肯定感等の非認知的能力を育むオリジナルの「Being up シート」を開発。2018 年には、子どもたちの希望ある未来、家族の絆を応援すべく「Being up 協会」を創立した。

Being up 協会 代表

町のお母さん保健室 Hidamally 代表

NPO ウーマンプロジェクト東海 副理事

〔分科会の概要〕

保育でも子育てでも、目に見えない「非認知的能力」の育みを考えることが何よりも大切であると、沢山の経験（特に失敗）を通して学んできました。

その「非認知的能力」を育むための三つの重要ポイントをお届けします。この知識を得ておくと、心と心が繋がり、保育も育児も楽になると思います。子どもも大人も、未来に希望を持ち、今を幸せに生きられますように、ワークを通して楽しみながら学んでいきましょう！

保育でも子育てでも大切な「非認知的能力」を育む為の3つの重要ポイントを「元保育士であり、アドラー心理学、カウンセリングのプロの澤田さんがお届けしてください。保護者、保育者そして森のようちえん素人からベテラン、子育てや子どもに関わる全ての皆さんにお勧めです。

こども×保育/屋内/講義形式

大人のみ（1歳未満の乳児同室OK）

A-3 「生きてるだけですごいんだ ～子どもの命を真ん中におく居場所づくり～」

講師：西野 博之（ニシノ ヒロユキ） / （認定 NPO 法人フリースペースたまりば 理事長）

1986 年から不登校の子どもたちの居場所づくりに関わり、91 年に「フリースペースたまりば」を開設。以来ひきこもり傾向の若者やさまざまな障がいのある人たちとも出会い、地域でともに育ちあう場をつくり続けてきた。

フリースペースとプレーパークを併せもつ「川崎市子ども夢パーク」所長。

〔分科会の概要〕

子どもに失敗させまいと先回りする親が増えている。幼児期から子どもに正しさ、完璧を求め過ぎる子育ては、やがて思春期に行き詰る。「正しい親」をがんばらなくていい。「ゆる親」でいい。子どもがうまれてきてくれたこと、生きているだけで奇跡のようなこと。「生まれてくれてありがとう」「あなたがいてくれて幸せだよ」というメッセージを子どもたちに届けよう。子どもたちにとって遊ぶことは生きることそのもの。安心して失敗できる環境のもとで、のびのびと子どもは育っていく。私たちの周りに、だいじょうぶのタネをまこう！

子ども達の今を見つめ続け、安心できる場をつくり続けている西野さん。子どもからの SOS を見逃さない為に、大人ができることとは？子どもだけでなく親にも、大らかで優しいまなざしと温かいエールを届けてくださいます。

こども×居場所/屋内/講義形式

子ども：何歳でも同室 OK

A-4 「市民の一步が教育を変える ～色んな教育をツクって未来をツクル～」

講師：一尾 茂疋（イチオ シゲヒコ） / （自主学校 瀬戸ツクルスクール 運営責任者）

自主学校瀬戸ツクルスクール運営責任者

瀬戸市教育委員会教育アクションプラン推進会議委員

一尾塾塾長、ポジティブディシプリン・ペアレント&学級エドゥケーター

〔分科会の概要〕

一市民である講師が、資格も役職も持たず、どのようにして無料のオルタナティブスクールと既存の学校教育を同時にサポートしているのか。そこにいたるまでの過程と背景、実践をお話しします。特に「小中学校の公教育を変えたい！」と強く思っている方にはピッタリの内容です。

小学校以降の教育について頭を悩ませている方はみえませんか？
一市民の一尾さんが奮闘してきた実践報告等々。こんな教育のやり方もある。わが子の教育に頭を悩ませている方をはじめ、学校の先生、行政の方にもおすすめの講座です。新しい教育をツクっちゃおう。

こども×学び/屋内/講義形式

子ども：何歳でも同室 OK

**A-5 <森林総合教育センタープログラム>
「森のおやこさんぽ」**

講師：篠木 真（シノキ マコト） / （あきるの市 小宮ふるさと自然学校）

都立小峰・奥多摩ビジターセンター解説員を経て、あきる野市小宮ふるさと自然学校長、子ども写真を数多く写し、写真集にまとめている。終戦の物のない子ども時代、楽しく、面白く、豊かな時間を過ごすため自然相手に工夫を凝らし遊んでいた。そんなことが現在の暮らしに繋がっている。

講師：篠木 里恵（シノキ リエ） / （のんきサロンぶひぶひ）

保育歴30年。のんきサロンぶひぶひ代表。キープ森のようちえんスタッフ。

講師：萩原・ナバ・裕作（ハギワラ ナバ ユウサク） / （岐阜県立森林文化アカデミー）

インタープリター、エコツアーガイド、野生動物番組制作を経て森林文化アカデミー准教授に。「野外自主保育 森のだんごむし」、「みのプレーパーク」、「放課後ランド」の発起人。

森と人をつなぎたいヘンなおじさんとして活躍中

〔分科会の概要〕

森へのゆったりのんびり散歩から始まり

- ・素話とウサギのかくれんぼ
- ・落葉人体アート
- ・アドリブ森の散歩遊び

自然学校の校長先生をする傍ら、子どもたちの自然体な姿をカメラで撮り続けている真さん、森のようちえんなどでの長い保育歴を持つ里恵さん、そして、ヘンなおじさん・ナバさん。この3人が揃えば、楽しいおさんぽになること間違いなし！
愉快的3人とともに、森へレッツゴー！！

自然×親子/屋外/WS形式

子ども：何歳でも親子参加OK

A-6 「遊びながら感じる「火」と「人」の繋がり① ～炎を生み出す～」

講師：川口 拓（カワグチ タク） / （WILD AND NATIVE 代表）

WILD AND NATIVE 代表。ネイティブアメリカンの教えを基礎に、大地に生きる術、ヒーリングや薬草、自然の教えなどを共有するワークショップを通年開催している。著書に「ブッシュクラフトマニュアル」「キャンプでやってみる子どもサバイバル」がある。

〔分科会の概要〕

ネイティブアメリカンの「火」についての教えを皆で共有したあと、皆で原始的な火おこしの方法に挑戦してみます。日常生活で何気なく触れている「火」ですが、自然に生きる、大地に生きる人々にとっての「火」って一体どんなものだったのでしょうか？我々「人間」と「火」との命の関係を知り、そして一緒に感じ取ってみましょう。

森のようちえんでは欠かせない焚き火。大人も子どもも火を通して知る、感じる、学ぶことがたくさんあります。焚き火から自然との関わりも見えてきますよ。サバイバルの達人、拓さんと一緒に森の中で体感しましょう！

自然×遊び/屋外/WS形式

子ども：6歳～OK

A-7 「樹木も人も、みんながハッピーであるために～生き物だからうれしいことといやなことがある～」

講師：三戸 久美子（ミト クミコ） / NPO 法人樹木生態研究会 副代表理事

樹木医、マツ保護士、大学の非常勤講師（東京農大、法政大学）など。本の執筆（共著）や翻訳にも、たずさわっています。

〔分科会の概要〕

人と樹木は同じ生き物でも、体のつくりや生き方がかなり異なります。

樹木のことをよく知らないと、知らず知らず、相手のいやなことをしてしまいます。

そうすると、よい状態で共存することは難しくなります。

自然の神秘はとても奥深いので、わからないことは未だにたくさんあります。でも、わかっていることもたくさんあります。

そのわかっていることを知り、できるだけ避ければ、樹木やその生活環境に負荷をあまりかけることなく、長く人も楽しませてもらえます。そのための知識・知恵をごく一部ですが、お伝えしたいと思います。

フィールドに使っている森が、何年か経って「ちょっと荒れた？」と思うことありませんか？森と少しでも長く一緒にいられるヒントがここにあります。木の気持ちを知りたい方、一緒に森に行きませんか。

自然×観察/屋外/WS形式

子ども：何歳でも親子参加 OK

A-8 <森のようちえん全国ネットワーク連盟プログラム>
「森のようちえんとは」

講師：内田 幸一（ウチダ コウイチ） / （森のようちえん全国ネットワーク連盟理事長）
森のようちえん全国ネットワーク連盟理事長
認定こども園 野あそび保育みっけ 園長
長野県野外保育連盟理事長

〔分科会の概要〕

森のようちえんにおける森と子どもの関係から森のようちえんの教育的効果についてお話しします。さらに保育者がどのように子どもたちに向き合う事で子どもの成長がより進むのかについて考えます。今日森のようちえんが全国的な広がりを見せる中、森のようちえんが社会的に求められる背景について未来社会予想を交えながら考えます。

『森のようちえん』という言葉ができる前から、子どもたちと森で過ごし、保育をしてきた内田さんは、まさに森のようちえんの父！！そんな内田さんが語る『森のようちえん』とは??

運営×森のようちえん/屋内/講義形式

子ども：何歳でも同室 OK

A-9 「聴きあう場が育ちあう場をつくる～トエックのようちえんと小学校 その理念と日常～」

講師：利根 清子（トネ スガコ） / （特定非営利活動法人 自然スクールトエック）

大学時代より TOEC 創設期を経て、たけのこ保育園系列の保育士となる。1990 年 TOEC のようちえんの設立から現在。

講師：仲本 桂子（ナカモト ケイコ） / （特定非営利活動法人 自然スクールトエック）

大学時代より TOEC に携わる。TOEC のキャンプカウンセリングスタッフを経て、郷里自然学校を立ち上げる。1998 年 TOEC 自由な学校の設立より現在。

講師：渡辺 有紀：（ワタナベ ユキ） / （特定非営利活動法人 自然スクールトエック）

定職に就かずにフラフラしている中、環境教育の NPO に関わる。JEEF 自然学校指導者養成講座を経て TOEC 研修生となり現在。

〔分科会の概要〕

TOEC のようちえん、小学校の創設スタッフが紹介します。TOEC ってどんな所？何を大切に活動しているの？など現場スタッフの声をお聞きください。また普段の子ども達とスタッフの関わり、親御さんとの関わりなどで特に大切にしている”聴きあう場”の体験も通して学びあいたいと思っています。

トエックってどんな所？日々の活動は？聴き合う大切さって？その疑問を現場で活躍する 3 人に語ってもらいます！トエックに行かないとなかなか体験できない 3 人のお話とワークショップ。そのスペシャルな時間を岐阜で味わえるチャンスです。

運営×連携/屋内/講義&WS 形式

大人のみ

A-10 「緊急性の判断基準や、気になるケガの手当 ～救急車到着までにできること～」

講師：寺田 達也（テラダ タツヤ） / （一般社団法人 ウィルダネスメディカルアソシエイツ ジャパン（WMAJ））

WMA インストラクターとして国内で野外災害救急法の普及をしながら、東京の「ひの自然学校」にて幼児～高校生までの子どもたちと野外活動を楽しむ日々。アウトドア全般大好き。冬はスキー場でパトロールも。

〔分科会の概要〕

森のようちえんを実施するフィールドの中には、里山など救急車が呼べてもすぐに到着できない現場がたくさんあります。実は里山環境のほうが救助に時間がかかる場合もあるのです。長い救護時間、適切な判断と行動をするためには、「ただしい評価」がなければできません。社会や保護者の方にも信頼される団体や指導者であるために、「人の命をどんな環境でも守る」知識スキルを身につけましょう！WSでは、実技を交えながら評価の方法と、代表的な処置の考え方をお伝えいたします。

いつものフィールド，森の中・・・。どんなに気を配っていても，緊急性の判断を求められることは突然やってきます。なんとなく知っていること…を越えて，自信を持って判断・処置できるスキルが身につけられます！

運営×安全/屋内/WS形式

大人のみ

B-1 「視機能の発達と自然環境 ～視覚は生まれてから身につける機能・感覚から認知への成長とは～」

講師：灰谷 孝（ハイタニ タカシ） / （株式会社 innochi 代表取締役 CEO）

会社員、企業研修講師を経て、発達障害といわれる子どもたちの心身発達支援を原始反射の観点から行っている。「発達の偏見と格差をなくし、発達がみんなのものになること」を目指している。従来のような度数の矯正だけでなく、メガネを掛けることで目の使い方、脳の使い方が変わり、目が楽になる、カラダが楽になる、感性が磨かれるといった「発達」を促す、これまで世の中になかったまったくの新しいコンセプトのメガネ「発達するメガネ」を2019年1月からリリース。

〔分科会の概要〕

視覚は生まれてから発達する能力です。では、五感の中でも特に存在感の大きな「見る」＝視覚は、生まれてからおとなになっていく過程でどのように育ち、認知能力へと成長していくのでしょうか。自然の中で過ごすことが視覚をどう育てるのでしょうか。視力の臨界期は6歳だと言われていますが、光と色が持つ影響力や、視知覚検査の体験を通して、私達がただ単に視力だけで見ているわけではないことに気づかれるでしょう。スマホや照明など、視環境が大きく変わる中で子どもたちや私達自身の目をどう守り、育てていくかのヒントにしていきたいと思います。

森や自然の中で過ごす「視覚」が育つ？では、なぜ育つのか？何が目に良いのか？
現在、「発達するメガネ」の作成を軸に活動されている灰谷孝さんの「視覚」のテーマにした、まさに目からウロコの時間を味わえます。
ワークを交えた体感型講座となっており、楽しく学ぶことができます！

こども×発達/屋内/講義&WS形式

大人のみ（1歳未満の乳児に限り同室OK）

B-2<森のようちえん全国ネットワーク連盟プログラム>
「森のようちえんの日々から考える」

講師：小林 成親（コバヤシ ナルチカ） / （NPO 法人 山の遊び舎はらぺこ）

14年間山里の小さな公立保育園に勤務した後、保護者と共にはらぺこを立ち上げ今年で15年目。

講師：沼倉 幸子（ヌマクラ サチコ） / （一般社団法人 森のようちえん はっぴー）

千葉県南房総市で野外幼児教育を主催。子どもたちが協力し助け合いながら、自分たちの力で森のようちえんはっぴーの暮らし(社会)を作り、楽しんで生活できるような集団づくりを目標に保育を行っている。

講師：山口 美和（ヤマグチ ミワ） / （上越教育大学大学院）

専門は教育哲学・教育臨床学。平成26年度「信州型自然保育認定制度」の創設に関わったことをきっかけに、身近な自然を活用し子どもの主体的な体験を重視する「自然保育」の研究にも携わる。

〔分科会の概要〕

全国では様々な森のようちえんが日々活動を行っているが、その森のようちえん活動のベースとなる部分はいったいどんなことなのだろうか。実践者と研究者が「暮らし」をキーワードにひとり一人のいのちが重なる場としての「森のようちえん」を考える。

子どもたちが森のようちえんで過ごす時間は、日々生活する時間の中で、多くを占めています。たった数時間だけど、子どもにとっては大事な時間。その中で、何を大切に活動しているのか？実践者と研究者、それぞれの視点から「森のようちえん」を考え、原点回帰できます。実践者の皆さんはもちろん、これから森のようちえんを立ち上げたいと考えている方にもおすすめです。

こども×森のようちえん/屋内/講義形式

大人のみ（1歳未満の乳児に限り同室OK）

B-3 「おとなのつもり 子どものつもり」

講師：柴田 愛子（シバタ アイコ） / （りんごの木 子どもクラブ）

横浜市都筑区で認可外の小さなようちえん『りんごの木子どもクラブ』を運営しています。今年で37年、保育歴47年になりました。こどももの`やりたい`を保証する保育を心がけていくうちに、子どもにすっかりはまってしまうしました。

〔分科会の概要〕

おとなは頭で考えて子どもによかれと思うことをやらせたい。子ども はやりたいと感じたことをやりながら考える。おとなは先を予測して 安全な方法をとると思い、子どもは体験がないからともかくやってみて失敗もする。このギャップがイライラにつながっていると思いませんか？子どものつもりに目を向けてみましょう。おとなのつもりを少し 変えると落ち着いた関係が作れるかもしれません。

47年間、たくさんの子供達の気持ちに寄り添ってきた愛子さん。笑って泣いて元気になる講演はどこにいても大盛況。今回は『…つもり』を題材に語っていただきます。それぞれの立場から見える『…つもり』、聞けばきっと肩の力が抜けるはず。お母さんも保育者もぜひ愛子節を味わってみてください。

こども×保育/屋内/講義形式

子ども：何歳でも同室OK

B-4 「森のようちえんゼミナール ～環境ってなんだ?～」

講師：小西 貴士（コニシ タカシ） / （写真家・森の案内人）

2000年よりキープ協会にて15年間インタープリターとして勤務。キープ森のようちえんプロジェクトを立ち上げ、清里聖ヨハネ保育園の副園長を務めた後にフリーランス。現在、八ヶ岳南麓にて汐見稔幸氏らと共に「ぐうたら村」という、保育者のためのエコカレッジを主宰。

講師：鈴木 秀弘（スズキ ヒデヒロ） / （わこう村 わこう保育園副園長）

わこう村和光保育園 副園長（保育士）、真福寺副住職（僧侶）

2006年より和光保育園に勤務。7年間クラス担任を受け持ち、子どもや親や同僚に保育を学び、2013年に副園長となる。5歳児担任時（2009年）の「わこう鉄研究所」の保育実践にて、ソニー幼児教育支援プログラム最優秀園受賞。保育・仏教哲学を中心に、周辺領域に学びながら、命の本質を探究している。

講師：久保 健太（クボ ケンタ） / （関東学院大学教員）

1978年三重県生まれ、埼玉県育ち。「ゆったりとした生活」がもつ人間形成上の意味が、一貫した研究テーマ。道を「ゆったりとした生活」の場として回復させたいと思っている。共著書に『保育のグランドデザインを描く』（ミネルヴァ書房）など。

〔分科会の概要〕

2017年、2018年と、全国交流フォーラムにて開いてきた「森のようちえんゼミナール」。森のようちえんを考えるためのテーマを、大学のゼミで扱うという設定で開催してきました。今年度も、先生役を久保健太（関東学院大学）、学生役を鈴木秀弘（わこう保育園）・小西貴士（森の案内人）が務め、笑いあり、納得あり、疑問大いにありのこの日限定ゼミを公開します。今年度のテーマは「環境」。みなさんにも話題を振りながら、ゼミを進めてゆく予定です。森のようちえんの活動を支える哲学を、いっしょにやりませんか？

人気企画「森ようゼミ」が今年も開講！聞けば聞くほどうなずけて、知れば知るほど面白い！今回のテーマ「環境」は森で活動する者にとっては外せない、森のようちえんの神髄に迫る内容となりそう。どんな話が飛び交うのでしょうか！？

こども×保育/屋内/講義形式

子ども：何歳でも同室OK

B-5 「子どものことをもっと知りたいと思ったときの聞き方」

講師：原 康子（ハラ ヤスコ） / （認定 NPO 法人ムラのミライ 研修事業チーフ）

名古屋大学国際協力研究科修士課程修了 国際協力、子育てなど地域づくりの現場で当事者主体の活動を支援。著書『南国港町おばちゃん信金‘支援’って何？「おまけ組」共生コミュニティの創り方』新評論 2014 年

〔分科会の概要〕

ムラのミライが途上国支援の現場で確立したメタファシリテーション手法を子育てに活用します。「子どものことをもっと知りたい」と思ったとき、ひとりの個人として尊重し、子どもの自己肯定感を高めながら話を聞く、そんな対話の手法を体験出来るセッションです。

- 1) メタファシリテーションとは？
- 2) 親子の対話あるある事例から～どうやって聞く？～
- 3) 事実を聞く質問とそうでない質問
- 4) 自己肯定感と事実質問
- 5) 事実質問の練習
- 6) まとめ

「なんで〇〇したの？」と聞いても返事がなくてイライラ…子供や家族とのやりとりにモヤモヤを感じたことはありますか？ご自身も子育て中の原さんが紹介下さるシンプルな質問術が、モヤモヤを変えるきっかけになるかもしれません。

コミュニケーション×こども/屋内/講義&WS形式

大人のみ（静かに遊べるお子さんであれば同室 OK）

B-6 「非構成な場でのスタッフの専門性とは？」

講師：伊勢 達郎（イセ タツロウ） / （NPO 法人自然スクールトエック代表）

学生時代よりカウンセリングキャンプを学び、（財）青少年野外活動総合センター指導部を経て、1985年「自然スクールTOEC」を設立。個人やグループのカウンセリング及び沖縄無人島キャンプなど、たくさんのフリー（自由な）キャンプを展開。アメリカのフリースクールやインドのラジニーシアシュラムを訪ね、1990年TOEC幼児フリースクール（現：TOECのようちえん）、1998年TOEC自由な学校を設立。社会に新しい学校のスタイルを発信、提案している。教育、福祉、看護などの大学や専門学校で人間関係論などの非常勤講師も務める。

〔分科会の概要〕

枠組みをゆるめ、森の中で自由にさせたからといって、人は自由になれる訳ではありません。理想を掲げて活動を始めても、現場はあくまで具体的であり非構成（思い通りにならない・何が起こるか分からない）です。

様々な個性の子ども、強い願いや思いを持ち、それぞれの価値観を持つ親、そしてスタッフ。それらの関係性がぎくしゃくしたり、反目しあったり、孤立感を感じたりするのではなく、共に育ちあい自由になっていく場づくりのため、スタッフの専門スキルとして何が必要なのか、親やスタッフが具体的にできることを体験的なワークを通して学び合ひましょう。

トエックが日々実践している育ち合う場づくりではいったい何が行われているのか。参加者自身の身体と気持ちを通じて学んでいくワークショップです。

人と人が関わりあって健やかに暮らしていけるヒントがここにはあります！

※参加者やワークショップで行う事例などにより、内容が変わってきます。トエックの世界を堪能したい方は、0-9との連続受講をおススメします

コミュニケーション×運営/屋内/WS形式

大人のみ

B-7 <森林総合教育センタープログラム>

「みんなで木を伐っちゃおう ～林業からみるチームビルディング～」

講師：新津 裕（ニイツ ユタカ） / （岐阜県立森林文化アカデミー）

神奈川県鎌倉市出身。森林文化アカデミーを卒業後、林業事業体や森林組合での森林の整備や体験活動を経て、現在は森林文化アカデミー講師。林業、森林環境教育を担当。

〔分科会の概要〕

みなさんにとって、森のようちえんの舞台でもある森はとても身近な場所だと思います。子どもにとって良い空間にする為、森を手入れしたいな～なんて思ったことはありませんか。森の木を伐るのは良いこと？悪いこと？木を伐ることで得られる恵みや森の変化、木を伐り運ぶ過程で発生するチームビルディングの要素など、さまざまな要素が含まれた森との関わり、体験を通して感じてみませんか？

『林業』と『チームビルディング』、一見かけ離れているこの2つですが、実は大きく関係している！？はじめましての参加者ととも森の手入れをしてみると、その理由がみえてくるかもしれません。森の中でのチームビルディング、ぜひ体験してみてください！活動フィールドを手入れしたい！と考えている方におすすめしたい講座です。

自然×コミュニケーション/屋外/WS形式

大人のみ

B-8 「遊びながら感じる「火」と「人」の繋がり② ～炎を育てる～

講師：川口 拓（カワグチ タク） / （WILD AND NATIVE 代表）

WILD AND NATIVE 代表。ネイティブアメリカンの教えを基礎に、大地に生きる術、ヒーリングや薬草、自然の教えなどを共有するワークショップを通年開催している。著書に「ブッシュクラフトマニュアル」「キャンプでやってみる子どもサバイバル」がある。

〔分科会の概要〕

ネイティブアメリカンは「火は生きている」と考えていました。「その証拠に餌を食べ、呼吸もする。」そんな教えの中に、「焚き火」を成功させる秘訣が隠されています。付近を散策しながら、火を「育てる」ための餌を集め、小さなたき火を各自一緒にやってみます。

森のようちえんでは欠かせない焚き火。大人も子どもも火を通して知る、感じる、学ぶことがたくさんあります。焚き火から自然との関わりも見えてきますよ。サバイバルの達人、拓さんと一緒に森の中で体感しましょう！

自然×遊び/屋外/WS形式

子ども：6歳～OK

B-9 「実践！森の音さがし～デカ耳持ってみつけにはいろいろ～」

講師：前田 昌輝（マエダ マサテル） / （ケルト音楽演奏家）

前田 絢子（マエダ ジュンコ） / （ケルト音楽演奏家）

2010年より「山ノぼうし」としてケルトの伝統音楽を人も景色も心地よい場にて演奏しています

〔分科会の概要〕

講師の用意したデカ耳を各々に持って森へ散歩しに行き、静かな森の音を聴く。また、森にあるものを使って音を出してみる。いつもは通り過ぎてしまう音に立ち止まる音の発見のワークショップです。

普段過ごしている森の中で、耳を澄ましてみたことはありますか？身近な素材で作られた『デカ耳』を持って、森の中に入ると、今まで気づかなかったいろいろな音が聴こえてくるかもしれませんよ♪

明日からの保育につながる楽しいワークショップで、気づかなかった自然の世界へ誘い、新たな森の魅力を発見しちゃいます。是非、親子でご参加ください！

自然×遊び/屋外/WS形式

子ども：年中～親子参加OK

B-10 「行政とダックを組む！！その時の実践者の心得～鳥取と岐阜の取り組みより～」

講師：西村 早栄子（ニシムラ サエコ） / （NPO 法人智頭の森こそだち舎理事長）
 （智頭町森のようちえんまるたんぼう代表）

2009 年智頭町に「森のようちえん まるたんぼう」を仲間達と立ち上げる。元県職員という経歴を活かし、行政と協働し全国に先駆け森のようちえん支援制度、県の保育料減免制度の森のようちえんへの適用、無償化の枠組み等に関わってきた。

講師：浅井 智子（アサイ トモコ） / （自然育児 森のわらべ多治見園）

- ・名古屋市立保育短期大学保育科卒業。
- ・公立保育園保育士を結婚後退職し、我が子を森のようちえんで育てる。
- ・「自然育児 森のわらべ多治見園」 創設者&園長。
- ・「母と子の幸せ応援団～ひなたぼっこ～」代表。
- ・エリクソン・シュタイナー・アドラー・佐々木正美さん・篠秀夫さん、野口嘉則さんなど、多くの人生の先輩方に学び続けながら、独自の感性で子どもとお母さんに寄り添い続ける。岐阜県多治見市在住。

〔分科会の概要〕

日本で最初に森のようちえんの認証制度を制定した鳥取県。
 ぎふ木育を掲げつつ、森のようちえんの強力な支援体制を整えつつある岐阜県。
 共に 2009 年に開園し、日本の森のようちえんの発展にも寄与してきた「智頭町森のようちえんまるたんぼう」の西村早栄子と「自然育児 森のわらべ多治見園」の浅井智子は大親友。
 それぞれの 10 年の実践発表と、森のようちえんの展望(野望?)について語り合うトークセッション。

『行政』とともに歩んできた「まるたんぼう」。『行政』とともに歩み始めた「森のわらべ」。

『行政』をキーワードに、森のようちえん界の TOP を走り続ける二人の対談が実現します。今後、行政と関わりたい森のようちえん実践者の方、必聴です！

運営×行政/屋内/講義形式

大人のみ（1 歳未満の乳児に限り同室 OK）

**B-11 「日常の保育で出逢うかもしれない危険生物の事故予防
～ハチ・ヘビ・ウルシなどへの対応～」**

講師：西海 太介（ニシウミ ダイスケ） / （一社）セルズ環境教育デザイン研究所）
白濱 真友（シラハマ マユ） / （一社）セルズ環境教育デザイン研究所）
生物科学学習の指導者。

2015年「セルズ環境教育デザイン研究所」を創業し、危険生物対策や、生物学研究の専門教室を指導するほか、メディア出演や書籍執筆・監修、中華人民共和国の自然学校の支援事業も行っている。

〔分科会の概要〕

ハチ、ヘビ、ウルシなど、日常の保育において自然と関わる上で、出会う可能性のある危険生物はたくさんいます。

事故予防において最も大切なのは、「何がどのように危険なのかを知り、事故が起こった時の処置を把握する」ことです。

こうした対策は、指導者自身の責任問題という観点からみても、知識をつけておく必要のある大切なリスクマネジメントです。

この分科会では、こうした身近に存在する危険生物の性質や対策について、ご紹介します。

ハチやヘビが私たちと出くわすとき、相手がどんな気持ちか考えたことはありますか？「きゃあ！！」と思うのはハチやヘビもおなじ。そんな生物たちの性質を知り、日頃のリスクマネジメントに活かしませんか？？

運営×安全/屋内/講義形式

大人のみ

C-1 「人間脳を育てる～発達障害の改善と可能性を理解する原始反射について～」

講師：灰谷 孝（ハイタニ タカシ） / （株式会社 innochi 代表取締役 CEO）

会社員、企業研修講師を経て、発達障害といわれる子どもたちの心身発達支援を原始反射の観点から行っている。「発達の偏見と格差をなくし、発達がみんなのものになること」を目指している。従来のような度数の矯正だけでなく、メガネを掛けることで目の使い方、脳の使い方が変わり、目が楽になる、カラダが楽になる、感性が磨かれるといった「発達」を促す、これまで世の中になかったまったくの新しいコンセプトのメガネ「発達するメガネ」を2019年1月からリリース。

〔分科会の概要〕

私達の脳は3層構造として紹介されています。脳幹、大脳辺縁系、大脳新皮質、それぞれに役割を持ち、連携しあいながら発達していきます。その中でも体温を調節する、内蔵を働かせるなどの生命活動や不随意（無意識）反射の働きを持つ「脳幹」は、胎児～3、4歳の間に最も発達します。しかし、生涯生きていく上での土台となる部分なので、生きづらさやお困り感を持っている人にとっても、脳幹に存在する「原始反射」という赤ちゃんの本能を育てていくことの大切さと可能性に触れます

灰谷さんの著書「人間脳を育てる」と同じ題のついた本講座！「生きづらさ」や「困り感」と赤ちゃんの生き残り機能である「原始反射」の関連とは？

現在、「発達するメガネ」の作成を軸に活動されている灰谷孝さんのお話を初めて聞いた時は、まさに目からウロコが落ちる感覚を味わいました。この感動をぜひ体験してみてください。

こども×発達/屋内/講義&WS形式

大人のみ（1歳未満の乳児に限り同室OK）

C-2 <森のようちえん全国ネットワーク連盟プログラム>

「森のようちえんって何だっけ？」

講師：中能 孝則（ナカヨク タカノリ） / （（公財）社会教育協会（理事））

日野社会教育センターに勤務し45年、幼児・青少年の野外活動を中心に活動する。（16年間館長歴任）1993年よりデンマークに学ぶ高齢者福祉&森の幼稚園の活動を学ぶ（のべ28回訪問）。デンマークの森のようちえんを紹介する活動を始める。

講師：野澤 俊索（ノザワ シュンサク） / （NPO法人ネイチャーマジック）
（森のようちえんさんぼみち）

2011年に兵庫県西宮市甲山に森のようちえんさんぼみちを開園。最初は園児2名での始まりでした。それから今年で9年目。いま25名の園児とともに毎日森で過ごし、笑いあり涙ありの様々なドラマを目の当たりにしています。

講師：横田 聖美（ヨコタ キヨミ） / （Fuji こどもの家バンビーノの森）

2007年わが子が通っていた幼稚園の閉園をきっかけに、認可外保育施設「Fuji こどもの家バンビーノの森」を設立。2016年認定こども園となる。2015年より、NPO法人森のようちえん全国ネットワーク連盟理事。

コーディネーター：塚本 岳（ツカモト ガク） / （あいち森のようちえんネットワーク代表）

森のようちえんとプレーパークの活動を軸に自然の中、また地域の中で子どもが「自ら育っていく」ことのできる環境づくりを行っている。

あいち森のようちえんネットワーク：代表/日本冒険遊び場づくり協会：地域運営委員/名古屋市緑児童館：館長

〔分科会の概要〕

森のようちえん全国交流フォーラムが開催されるようになり今年で15年目。

森のようちえんが全国に広がり認知が広がる一方、10月から始まる無償化では拠点を持たず野外で活動するほとんどの森のようちえんは対象外に。

そんな節目、そもそも森のようちえんって何だっけ？何でこんなに魅力的なんだっけ？何の為にやっているんだっけ？

揺れる日本の今だからこそ、原点の質問を森のようちえん大ベテランのNWの理事の皆さんにざっくばらんに話して頂き、みんなで原点にかえりたいと思い企画しました。

実行委員会からの投げかけで実現したこの分科会！

様々なカタチで森のようちえんの活動をしているネットワーク理事の方に森のようちえんについて語っていただきます。今一度みんなで大会テーマでもある「森のようちえんって何だっけ？」を考えてみましょう。

こども×森のようちえん/屋内/トークセッション形式

子ども：何歳でも同室OK

C-3 「心をひらいて 学んで 育つ ～3年保育「幼児の学校」とフリースクール「小学部」の実践から見えてきたこと～」

講師：小倉 宏樹（オグラ ヒロキ） / （よみたん自然学校）

1972年神戸市生まれ。ボーイスカウト活動が、野外活動の原点。大学時代のキャンプカウンセラー経験をきっかけに野外教育に関心を持つ。2004年よみたん自然学校開校。ジャパンアウトドアリーダーズアワード（JOLA）2018 大賞受賞。

講師：小倉 のぶ（オグラ ノブ） / （よみたん自然学校）

1973年生。高2中2小4の母。大学時代に野外教育や環境教育を通じた自然体験提供の手法を学ぶ。企画&編集会社で修行後、独立。現在沖縄の自然の中で、子ども&親と共に学び合う場を創造中。沢山の出会いを！

〔分科会の概要〕

よみたん自然学校は16年目を迎えました。私たちが大切にしていることは、「自然体験」「子どもの主体性の尊重」「気持ちを伝え、受け止め合う関係性」「感性と体を育む食」です。私たちはその思いをどうやって形にしてきたか、子どもたちがどんな風に成長していったのか、16年間の活動を通して見えてきたことをご紹介しますながら、みなさんと一緒に学びを深めていけたらいいと思います。

自然・人との関わりを通して学びあい、育ちあう場を作ってきた小倉ご夫妻。沖縄の大自然の中で、何を大切にして、子どもたちと向き合ってきたのでしょうか？よみたん自然学校流を知ることで、実践のヒントがたくさん見つかるはず！！

こども×育ち/屋内/講義&WS形式

子ども：何歳でも同室OK

C-4 「拡がる、深まる。自治体による「森と自然を活用した保育・幼児教育」支援～「森と自然の育ちと学び自治体ネットワーク」参画自治体の現状と展望～」

講師：長野県、鳥取県、広島県、長野県東御市立祢津保育園

「森と自然の育ちと学び自治体ネットワーク」とは、森と自然を活用した幼児期からの多様な体験活動を推進する自治体ネットワークで、令和元年6月現在、16県と97市町村の計113自治体が加盟している。

コーディネーター：木俣 知大（キマタ トモヒロ） / （公益社団法人国土緑化推進機構）

「森と自然を活用した保育・幼児教育」の社会化に向けて、「森と自然を活用した保育・幼児教育ガイドブック」・「森の幼稚園」翻訳本の制作等や、「森と自然の育ちと学び自治体ネットワーク」等と連携した普及啓発・調査研究等を実施。

〔分科会の概要〕

近年、保育・幼児教育の質の向上や森林活用の推進、地方創生の推進の観点から、「森と自然を活用した保育・幼児教育」の推進に向けて、地方自治体による認証・認定制度の創設、人材育成、フィールド整備といった支援施策が拡がりをみせています。

そこで、先進県の長野県、鳥取県、広島県による支援施策や、長野県東御市における支援体制構築等の事例を紹介した上で、今後、自治体ネットワークと連携して、「森と自然を活用した保育・幼児教育」の支援施策を拡げ、深めていく方向性について意見交換します。

「森と自然の育ちと学び自治体ネットワーク」の発起人である3県に、ネットワーク誕生秘話や今後の展望について語っていただきます。また、3県に共通するのは、県独自の自然保育の認証・認定制度を創設していること。制度創設に至るまで苦労話や裏話、ノウハウは自然保育の支援施策を検討中の行政職には必聴！

また、現場はどのように変わったのか、祢津保育園での事例を交えて、現場の声もお届けします。

コーディネーターはお馴染みの木俣さん。今回も木俣ワールド全開で、会場全体を巻き込んで意見交換しちやいます！

こども×行政/屋内/講義形式

大人のみ

C-5 「森に行くと本能で助け合ったつながりからまじわりへ」

講師：池田 尚（イケダ ヒサシ） / （諫早市こどもの城 館長）

4年前に開催された「第11回森のようちえん全国交流フォーラム in 長崎・いさはや」の実行委員長。教師・自然の家・内閣府～文部科学省勤務などを経て、現在全国でただ一つの自治体直営で森のようちえん活動を実施している児童施設「諫早市こどもの城」の館長。休日は講師として、子育てやコミュニケーション・体験学習をテーマにあちこちで講演を行う。また、青年によるまちづくりサークル、地域の少年野球のコーチなど「目の前の人を愛する」を合言葉に、住んでいる地域を意識した活動を続ける。

〔分科会の概要〕

昨年第14回森のようちえん全国交流フォーラム in とっとりで行われた分科会「森に行かない母ちゃんを誘え！」から更に一步を踏み出した内容となっています。

- 目的共有「本当に誘いたいですか？」
- 参加者同士が少し知り合う時間
- テーマに迫る時間
 - ・人と交わること
 - ・それを妨げるもの
 - ・成長した親子の背景に

森のようちえんでは、人と人が深い部分で関わります。それは子どもに限らず、大人・地域まで広がります。諫早市で多くの人々の心を解きほぐすコーチ節を受けてみませんか？「どうして森に行くのか？」を知りたい森のようちえん初心者さんにもおすすめです。

コミュニケーション×自然/屋内/WS形式

大人だけの時間

C-6 <森林総合教育センタープログラム>

「歩く植物図鑑 ～森のおじさんと感じる気づき～」

講師：川尻 秀樹（カワジリ ヒデキ） / （岐阜県立森林文化アカデミー）

岐阜県美濃市生まれの美濃市育ち。岐阜県職員として森林・林業関連の様々な職場を経て森林文化アカデミー教授、副学長を歴任。現在は森林文化アカデミーに新たに設立する森林総合教育センター（仮称）の立ち上げに着手。

〔分科会の概要〕

森で過ごすこと、森で遊ぶことは楽しいですね。

でも、新しい気づきがもう少しあればより一層、安全に楽しくなるかもしれません。昔から伝わる植物の活用法、危険な植物、面白い植物などなど。新しい切り口を知れば、これから森を見る目が変わります。想定困難なほど、あらゆる角度から話が飛び出します。ひよっとすると、話し過ぎて10m歩くのに1時間かかるかも？

森が大好きなおじさんと、森の中にあるたくさんの気づきの一端を体験しましょう。

川尻さん（通称：ジリさん）はアカデミーの森を知り尽くした『歩く植物図鑑』。次から次へと出てくる植物の知識を聞いていると「へえ～」「なるほど～」が止まりません。

たくさんの気づきが得られること間違いなしです！！

自然×観察/屋外/WS形式

子ども：5歳～OK

C-7 「『〈親〉になる』ことを支えるために～保護者に寄り添う営みを“森”から考える～」

講師：小菅 江美（コスゲ エミ） / （森のようちえん てくてく）

森のようちえんを続けて15年、森の子育て広場でも乳幼児の親子と関わりの場を17年続けています。子どもたちだけでなく親との関わりを通して、子育ての悩みや社会の状況を見てきた事例を挙げながら、森が果たせる子育て支援をみなさんと一緒に考えたいです。

講師：山口 美和（ヤマグチ ミワ） / （上越教育大学大学院）

専門は教育哲学・教育臨床学。平成26年度「信州型自然保育認定制度」の創設に関わったことをきっかけに、身近な自然を活用し子どもの主体的な体験を重視する「自然保育」の研究にも携わる。

〔分科会の概要〕

「子を産んだだけでは親にはなれない」と言われるように、「親になる」という出来事には、生物学的事実だけでなく、その人を取り巻く社会的な関係性の組換えの意味が含まれています。子どもと向き合いながら社会的に「〈親〉になる」プロセスにはさまざまな葛藤があります。孤立感を感じる子育ての状況や社会的な支援の不足など、保護者がさまざまな課題に直面する時代において、悩みながら〈親〉になろうともがく保護者を、私たちはどう支えたらよいのか。“森”という場所をヒントに、社会のあり方について考えます。

「森は子どもが育つのに最適な場所」って話はよくあるけれど、「親」にとってはどういった場所なのか、考えたことがありますか？保育だけでなく、子育て支援という視点から「森」をとらえるきっかけになるかもしれません。

自然×親/屋内/講義形式

大人のみ（1歳未満の乳児同室OK）

C-8 「森おどれば地球ほほえむ！～レンズ越しに見える瞳の奥の輝き～」

講師：佐藤チャル範裕（サトウ チャル ノリヒロ） / （カワキタフィルムワークス）
〔プロフィール〕

1970 年生まれ。岐阜県出身の NATIVE SURFER。映像作家。自然から受けとったエッセンスを大切にファインダーを覗く。美濃加茂市里山千年構想、世界遺産白川郷 PV を初め、フェス、イベントや、全国のミュージシャンの PV、ドキュメンタリー作品を手がける。

〔分科会の概要〕

波乗りや薪割りなど自然と寄り添う暮らしをしながら「心撮／ココロドリ」をモットーに、地球や 自然から得たエッセンスを映し込み、観る人の心に響く映像作品の制作を心掛けています。美濃加茂市の里山千年構想の一環である「森のようちえん」「森の winter camp」「地球と遊べる まちなんだ」「植樹講座」の映像制作をはじめ、フェスやイベントなど自然の中で輝いてる人々をレンズ越しに見て映してきた経験を活かして、人が森や自然と寄り添う未来の大切さ、森のようちえんの未来の在り方をお伝えできたらと思っています。

森や自然のなかでイキイキと過ごす子供達を映像で見ることができます。子どもだけでなく自然からの視線をしっかりとキャッチした映像からは新たな発見もあるはず。枠組みを超えた新しい世界をレンズ越しに覗いてみては??
映像で「森のようちえん」をPRしたい！と考えている方にもおすすめです。

自然×カメラ/屋内/講義形式

子ども：何歳でも入室OK

C-9 「トエック流聴きあう場のつくり方」

講師：伊勢 達郎（イセ タツロウ） / （NPO 法人自然スクールトエック代表）

〔プロフィール〕

学生時代よりカウンセリングキャンプを学び、（財）青少年野外活動総合センター指導部を経て、1985年「自然スクールTOEC」を設立。個人やグループのカウンセリング及び沖縄無人島キャンプなど、たくさんのフリー（自由な）キャンプを展開。アメリカのフリースクールやインドのラジニーシアシュラムを訪ね、1990年TOEC幼児フリースクール（現：TOECのようちえん）、1998年TOEC自由な学校を設立。社会に新しい学校のスタイルを発信、提案している。教育、福祉、看護などの大学や専門学校で人間関係論などの非常勤講師も務める。

〔分科会の概要〕

枠組みをゆるめ、森の中で自由にさせたからといって、人は自由になれる訳ではありません。理想を掲げて活動を始めても、現場はあくまで具体的であり非構成（思い通りにならない・何が起こるか分からない）です。

様々な個性の子ども、強い願いや思いを持ち、それぞれの価値観を持つ親、そしてスタッフ。それらの関係性がぎくしゃくしたり、反目しあったり、孤立感を感じたりするのではなく、共に育ちあい自由になっていく場づくりのため、スタッフの専門スキルとして何が 필요한のか、親やスタッフが具体的にできることを体験的なワークを通して学び合いましょう。

日々の保育活動や子育ての中で感じている疑問や悩みを取り上げ、参加者と一緒に糸口を見つけていくワークショップです。見方が変われば問題だと思っていたことも違って見えるはず！現場のリアルな声をぜひこの機会に伊勢さんと共有してみませんか？

※参加者やワークショップで行う事例などにより、内容が変わってきます。トエックの世界を堪能したい方は、B-6との連続受講をおすすめします

運営×コミュニケーション/屋内/WS形式

大人のみ

C-10 「事故事例から考える、自然保育・園外保育のリスクマネジメント
～事故を未然に防ぐには？適切な応急処置とは？～」

講師：渡辺 直史（ワタナベ ナオフミ） / （プラムネット（株）アウトドア共育事業部）

子どもたちに体験を提供する指導者・保育者のための学びの場「体験活動リーダーアカデミー」を社内で立ち上げ、年100本以上の講座を開催。自らも事故予防のリスクマネジメントや小児救命救急法の講座などを担当。

〔分科会の概要〕

事故事例を紐解きながら、そこにどんな【リスク（＝事故につながる要素）】があったのか、もしその場に自分がいたら事故を回避できたのか、あるいはどのように回避したか、について考えます。

一方、命にかかわる傷病が発生した時、混乱した現場で職員の意思統一をはかり、保護者への説明責任を果たすためには、応急処置の【根拠】が明確であることが欠かせません。この分科会では、適切な処置とその根拠についても学び、これらを日々の保育に活かすことを目指します。

事故事例を読んで、「こんなことあったら怖いな・・・」と思うことはありますか？もし自分が現場にいたら、何ができたのか、はたまた回避できたのか。さらに、緊急性の判断を求められた時の対応や処置についても学べる講座です。

運営×安全/屋内/講義形式

大人のみ

<令和元年6月27日改訂>